

4 2. ^{なかせんどう}中山道—^{ひがしみのじ}東美濃路

選定箇所：馬籠峠～新茶屋～落合宿（岐阜県中津川市）、西行塚～三城峠（恵那市）、大湫宿～細久手宿（瑞浪市）、御嶽宿～上恵土（御嵩町）

概要：馬籠峠から新茶屋にかけての区間は標高差約310mで、その間に馬籠宿が存在する。馬籠宿は傾斜地に設置され、宿場内の民家は石垣を築いて屋敷地を確保していた。馬籠宿から西に向かい、新茶屋の手前に差し掛かると、正面に中津川市街が一望でき、貝原益軒の『岐蘇路記』にも記されている江戸時代の情景と変わらない景観が残されている。

西行苑から三城峠にいたる道は、西行塚、榎ヶ根追分や姫御殿等、江戸時代の旅人の足跡をそのままたどることができる。特に、榎ヶ根一里塚と紅坂一里塚は、対となる2つの塚が残る。

大湫宿から細久手宿の間は部分的に道路の拡幅や付け替えがなされているが、「木曾路名所図会」に描かれたほろ岩やえぼし岩、また奥之田一里塚や弁天池等が往時の面影を留めている。特に琵琶峠は美濃国で最も高い峠としても知られ、八瀬沢一里塚や石畳、石仏などを見ることができ、約1kmの区域が史跡に指定されている。

国の重要文化財に指定される本堂及び仏像を擁する願興寺を中心に広がる御嶽宿から、かつて太田の渡のあった木曾川の東側の宿場である伏見宿まではほぼ平坦なルートである。御嶽宿から東側は史跡に指定された3.6kmを含む区間で、途中からは山間部に入り、石畳や牛の鼻欠け坂、一呑の清水の跡など、当時の風情が感じられる。



【写真提供：中津川市】



紅坂一里塚（恵那市）



琵琶峠（瑞浪市）



中山道御嶽宿（御嵩町）